

I 実践

1 実践テーマ

好ましい人間関係を目指した学年・学級経営の在り方

2 実践内容

(1) 3i運動の推進と継続

3iとは

3は、縦割り3クラスの3を意味している。3iは、3つの〈あい〉を意味している。また、『まなびあい』『みがきあい』『たかめあい』は、言葉の定義は、重複するところがあるが、以下のようにとらえる。『まなびあい』は、授業の中で、「お互いに教え合うような機会」と『みがきあい』は、道徳や総合、学級活動、清掃など一般社会につながる学習の場などで意識されることになり、「心を磨き合うような機会」と『たかめあい』は、生徒会活動や部活動などで、学級や学校など「集団同士で互いに健闘を称えるような場」の設定と考えてる。

ア 3iを意識した活動

(ア) 朝のあいさつ運動

生活委員会を中心として、昇降口でのあいさつ運動をおこなっている。一日の始まりを気持ちの良いあいさつでスタートすることができ、学校生活に潤いと落ち着きが生まれた。

(イ) メッセージカードの作成と掲示

市内総体に参加する3年生に向けて1・2年生が励ましの言葉をカードに書いて廊下に掲示した。3年生は、この励ましのメッセージカードを見て、総体で頑張らなければいけないという気持ちが高まった。総体までの練習に、いつも以上に熱が入る部活動がどこでも見られた。学校全体を盛り上げて総体に臨み頑張っていこうという雰囲気づくりにメッセージカードを生かすことができた。

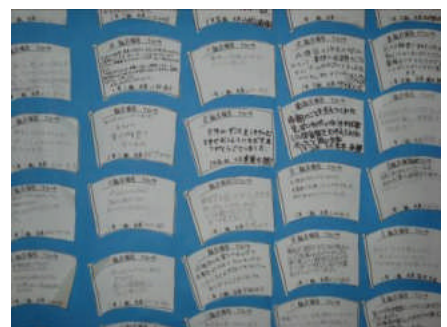
体育祭や文化祭などの学校行事終了後には、それぞれの実行委員や生徒会役員、集団長などに宛てたメッセージカードも書いて掲示した。メッセージカードの内容から、実行委員や生徒会役員、集団長に対する労いの言葉や感謝の言葉がたくさん書かれていた。このメッセージカードを通して、送られた側はリーダーとして「頑張った甲斐があった。」「苦勞したけれどやってよかった。」という気持ちをもつことができた。また、送った側も素直に感謝の言葉を送ることができ、好ましい人間関係づくりに大いに役立つことができた。

一昨年から、行われているメッセージカードであるが、本校の好ましい人間関係づくりには、このメッセージカード制作は欠かすことができないものとなり定着してきた。

(ウ) 生徒の主体的な活動を意識した行事

体育祭、文化祭、壮行会、体験学習等の行事において、生徒が考え、話し合って企画・準備・運営を行えるように活動の場の設定を行った。学年生徒会や実行委員会を中心としてそれぞれの行事のねらいにそった充実した行事を実践することができた。

今年度は、小松ヶ丘祭（文化祭）で前夜祭が初めて実施された。生徒会が中心となって行われた前夜祭だったが、各クラスで「盛り上げ隊」が結成され、生徒の主体性が生かされた前夜祭となり学校がひとつになった。



(2) 生活反省カードの活用

生徒は、生活反省カードを書いて担任に提出している。担任はそれにコメントを書き入れることを毎日行っている。これによって、生徒と教師とのコミュニケーションが図られ、好ましい人間関係づくりのための手段の一つになっている。また、生徒の生活の様子や考えをとらえることができ、生徒指導の方向性を考える参考にもなっている。

(3) 人権メッセージカードの作成

3i運動を継続して実践していかなかで、「学び合い」「磨き合い」「高め合い」が様々な場面で見られるようになってきた。メッセージカード作成ではお互いの存在を「認め合う」ことができるようになってきた。

1・2年（女子）生徒のメッセージカードから

辛いときに、私を勇気づけてくれるのは、仲間です。私のまわりにはいつも家族、友だち、近くに住んでいる人たちなどたくさんの仲間がいます。その人たちは皆、私がつらいときいろいろな言葉をかけてくれます。その言葉にいつも私は勇気づけられるのです。私もまわりの人の仲間になり勇気づけることができたらいいいです。

私が、自分の人生で大切に思っていることは、「感謝」です。私は、友達や親などから、感謝しなくてはならないことをいっぱいしてもらっています。だから、感謝の気持ちを大切にしたいと思います。

そこで、色々な立場の人についても考えられるようになれば、さらに、好ましい人間関係が築けるようになるだろうと考え、人権だよりを通して人権メッセージカードの作成を全校に呼びかけた。この取り組みは、人権について考えるよい機会となった。それぞれ違う立場で人権について考え、改めて友達の大切さに気づき感謝するところが芽生えた。また、自分達が暮らす世界が幸せであるかであることを実感したりすることができた。

(4) 敬老会への参加

福祉委員会が敬老会に参加した。豊浦地区に在住のお年寄りへ感謝の気持ちを込めて、お茶などの差し入れを行ったり、会場の手伝いをしたりした。ひとこと声を掛けながら差し入れをすることで、お年寄りとの交流ができた。最初はどのように声を掛けたらいいか戸惑う様子も見られたが、友達と協力しながら活動するなかで、積極的にお年寄りに声を掛ける姿が見られるようになった。この活動を通して、なにげないやりとりから思いやりの心を育てることができた。



3 成果

3i運動を推進・継続していく中で、自分とは違う立場の人の気持ちを思う心が育ち、それらを生活に生かせるようになってきた。それは、日常の何気ない場面で感じられる。例えば、具合が悪くなった友達に優しく声を掛けたり、教室に入れないでいる友達に接したりする態度からも分かる。また、メッセージカードに書かれている言葉や人権メッセージカードからも分かるように、相手を思いやる言葉がごく自然に使われるようになり成長の跡がうかがわれる。

また、部活動での「高め合い」の気持ちも確実に育っているように感じる。部活動では、朝のランニングにおいてお互いを切磋琢磨する姿が見られ、どの部活動でも目標に向けて頑張る姿が見られた。3i運動を通して、生徒同士が好ましい人間関係を築き、様々な場面で相手を思いやる気持ちが生かされたことが成果としてあげられる。

II 今後の課題

好ましい人間関係を構築するために、メッセージカードをはじめとする取り組みが定着してきているので、今後は人権コーナーの設置を工夫し、生徒の人権感覚を高める場として活用したい。

今後も、互いに認め合い尊重し合えるより良い人間関係が築けるよう私たち教職員も人権意識を高めていきたい。